（第3種郵便物認可）　奈良新聞　令和7年（2025年）7月9日　水曜日　第2社会　2

天理市
韓国派遣の中学生使節団出発式
期待と責任胸に

天理市の代表として市立中学校4校の中学生11人が韓国へ派遣される＝4日、天理市役所

写真をもっと　奈良新聞デジタル

天理市は4日、姉妹都市の韓国忠清南道瑞山（ソサン）市に派遣する中学生使節団の出発式を市役所で行った。生徒のほか、並河健市長や榎堀秀樹市議会議長、天理市の代表として9日～11日、市立中学校4校の中学生2、3年生11人を派遣する。学生らは瑞山市の中学校で交流し、韓国の首都ソウルなどを見学する予定。使節団には引率者3人、サポート学生2人、通訳者1人も同行する。

並河市長は「韓国と日本は近くも遠くもあり、（旅行は）いろいろ調べて知るきっかけとなる。異文化でも人と向き合いながら同士という感覚も持ってほしい」とあいさつ。古代に大陸から日本へ伝えられた仏教や現在人気の高い韓国のポップ音楽など、さまざまな角度から日韓関係の歴史などについて紹介し、楽しみながら現地で勉強する大切さを話した。その後、瑞山市長に手渡される並河市長の書いた親書が、藤田俊史副市長から学生らに預けられた。

市立北中学校の2年生、榎木陽花花さん（13）は「伝統的な文化をはじめ、いろいろなことを学んで天理の方々や自分の学校に伝えたい」と楽しみにしている様子。市立西中学校の3年生、西岡直輝さん（15）は「市の関係者の皆さまに感謝の気持ちでいっぱい。市の代表として行くことも責任感を感じている」と話した。

共生の地域づくりへ
上武建設、生駒市に寄付

企業版ふるさと納税への市民功労感謝状を手にする上武会長（右）と寄贈銘板を手にする小紫市長＝3日、生駒市北大和の上武建設本社

建設機械のレンタルリース事業を手掛ける上武建設（大阪府四條畷市）は、企業版ふるさと納税の制度で生駒市「地域共生社会の実現に向けた環境づくり」に110万円を寄付した。生駒市は3日、同社社長も務める上武建設グループの上武勝宣会長に市民功労表彰を授与した。

上武会長は、生駒出身・在住。同市内の社会福祉法人への長年にわたる協賛や、同市内学童野球チームの活動への協賛など、多岐にわたる地域貢献を行っており、母校の市立生駒北小中学校には定期的な書籍の寄贈を行い、「上武文庫」として児童・生徒らに親しまれている。

表彰を受けた上武会長は「これからもできる限り支援を継続し、地域のために精いっぱい頑張りたい。次世代が活躍し、生駒市がより住みよいまちへと発展することに期待を寄せる。このたびの寄付は、市立たいという」と感謝した。

小紫雅史市長は「企業版ふるさと納税をはじめ、地元のイベントや祭り、文化財の保護などさまざまなかたちで寄付をいただいている。暮らせる地域共社会の実現に向けた環境づくりに役立ていただく。放送設備の更新完了後には寄贈の銘板が掲出されいただく。誰もが安心して暮らせる地域共社会の実現に向けた環境づくりに役立てたい」と感謝した。

多彩な額装画ずらり
一会の会 奈良で初の作品展

写真をもっと　奈良新聞デジタル

昨年12月に設立した新しいアーティストの団体「一会（いちえ）の会」（8人）は8日から、奈良市三条町にあるギフトスペース「アートスペース三条」で、第1回「一会の会展」を開催している。

水彩、油彩画やコラージュなど約45点の作品を展示＝8日、アートスペース三条

水彩、油彩画やコラージュなど、約45点を展示する。13日まで。

題材は景色や花、人物やペットなど、さまざまで、このうちフランスの世界遺産「モンサンミッシェル」を描いたものや、イタリアの路地の雰囲気を伝える作品が目を引く。アーティストが西欧に旅して、現地でスケッチを描いてから、日本で制作したというさらに、ひな形を優雅に表現した絵も印象的だ。

奈良市から訪れた森奎輔さん（82）は「人によって色使いや表現の違いがいろいろあって面白い。特に花が好き」と感想を述べた。

同会は、天理市別所町の「一の辺工房」、天理教至一分教会で活動しているメンバーで構成。これから年に1回、作品展を継続していくとしている。

関根雅子代表は「作画約45点を展示する。13日まで。題材は景色や花、人物やペットなど、さまざまで。このうちフランスの世界遺産「モンサンミッシェル」を描いたものや、イタリアの路地の雰囲気を伝える作品が目を引く。アーティストが西欧に旅して、現地でスケッチを描いてから、日本で制作したというさらに、ひな形を優雅に表現した絵も印象的だ。

奈良市から訪れた森奎輔さん（82）は「人によって色使いや表現の違いがいろいろあって面白い。特に花が好き」と感謝した。

同会は、天理市別所町の「一の辺工房」、天理教至一分教会で活動しているメンバーで構成。これから年に1回、作品展を継続していくとしている。

関根雅子代表は「作

平城宮いざない館で31日まで、藪さん写真展
古都、躍動の夏鳥

平城宮跡に集まる鳥などを撮影し続ける藪重幸さん＝奈良市二条大路南の平城宮いざない館

奈良市二条大路南の平城宮いざない館で、「平城宮跡 夏鳥たちの小さな写真展」（同館主催）が開かれている。31日まで。

写真展では、平城宮跡を捉えた写真家の藪重幸さん（68）の作品約160点が並ぶ。大阪府堺市在住の藪さんは「生き物を撮りたい」と20年ほど前から写真を始め、この地に集まる多様な鳥たちの姿を撮影し続ける。

「きれいな印象から鳥たちを撮り始めたが、毎日観察するうちに平城宮跡の豊かな営みすべてに興味が広がった。もっと地元の人に知ってもらいたい」と話し、今では年間200日ほどこの地でカメラを構えているという。

夏鳥をテーマに、求愛を広げて飛ぶ姿を正面から捉えた写真家の藪重幸さん（68）の作品約160種以上の鳥たちの躍動感あふれる姿を楽しめる。絶滅危惧種のコアジサシの姿もある。

また、解説パネルやドキュメンタリー（野鳥彫刻）を通じて、自然環境や鳥の生態についても紹介している。藪さんは「夏休みの期間になるので子どもたちに鳥について知ってもらいたい」と話す。

100種捉えた160点
生態など解説も

開館は午前9時から午後5時（入館は午後4時30分まで）。14日は休館。入館無料。問い合わせは平城宮跡管理センター、電話0742（36）8780。

活動の新方向を模索
大和高田RC 山田会長ら抱負

抱負を語る（左から）山田会長、木原幹事、脇本委員長＝8日、奈良新聞社

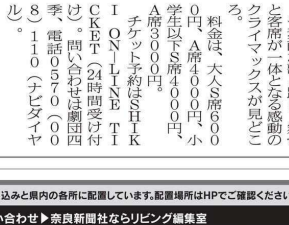
大和高田ロータリークラブの山田博会長ら新役員が8日、就任あいさつのため奈良新聞社を訪れ、抱負を語った。

木原常裕幹事、脇本吉清公共イメージ委員長とともに来社した山田会長は「クラブ65周年の節目の年。先輩方の精神を受け継ぎながら（活動の）新しい方向を模索していきたい」と抱負。その一環として、木の老齢化や傷みが出てきている大和高田市の高田川沿いの千本桜の植樹を行う方針で「市が活性化する一助になれば」と話した。

奈良新聞社を訪れ、抱負を語った。

木原常裕幹事、脇本吉清公共イメージ委員長とともに来社した山田会長は「クラブ65周年の節目の年。先輩方の精神を受け継ぎながら（活動の）新しい方向を模索していきたい」と抱負。その一環として、木の老齢化や傷みが出てきている大和高田市の高田川沿い

なら100年会館で来月7日
劇団四季ミュージカル
「王子と少年」公演


『王子と少年』のイーシン（撮影・上原タカシ）

劇団四季は8月7日午後4時30分から、ファミリーミュージカル『王子と少年』を、なら100年会館で公演する。主催は劇団四季と奈良新聞社。

原作は「トム・ソーヤーの冒険」などで知られるマーク・トウェインの名作から生まれた。今を生きるすべての人たちへの大切なメッセージが込められている。手に汗を握るストーリーや素敵な歌と踊り、舞台と客席が一体となる感動のクライマックスが見どころ。

料金は、大人S席6000円、A席4000円、小学生以下S席4000円、A席3000円。

チケット予約はSHIKI ONLINE TICKET（24時間受け付け）。問い合わせは劇団四季、電話0570（008）110（ナビダイヤル）。

デスク メモ

◇…安倍晋三元首相が前回参院選挙の応援演説中に銃撃され死亡した事件から3年となった。事件翌年には衆院和歌山1区補欠選挙で応援に訪れていた岸田文雄前首相が襲撃を受けたことも記憶に新しいところです。いずれも特定の組織に所属しない単独犯「ローンオフェンダー（LO）」の犯行とされています。

都道府県警ではLO情報の集約や危険度を判断する仕組みを各警察署レベルにまで拡充し、対策の強化を進めてはいます。3年前の悲劇が二度と繰り返されてはならません。（雅）

往来
9日

■1時30分、県総合医療センター（奈良市）で11月に開催される「なら100年会館」の完成式典に向けた準備長会議（鹿田）

■市政■

【会議】川市市長△会議▽鈴木副市長△会議▽真銅正市長△会議▽尾崎市長△会議▽中前副市長△会議▽小紫市長△会議▽中尾副市長△会議▽並河市長△前佐市長△会議▽藤田市長△会議▽吉田副市長△会議▽奥副市長△会議▽中前副市長△会議▽奥副市長△会議▽堀内市長△会議▽奥副市長△会議▽山田副市長△会議▽奥副市長△会議▽平岡市長△会議▽福塚副市長△会議▽牛前副市長△会議▽田中副市長△会議▽中前副市長△会議▽中尾副市長△会議▽中前副市長△会議▽中尾副市長△会議▽中前副市長△会議▽中尾